

(1) 落雷・豪雨等への対応

①前日まで	
委員長 運営責任者	●気象状況の確認 →危険が予測される場合、試合方法変更や日程変更（中止・延期）の想定を行う。 変更が必要な場合は前日のうちに判断し、ホームページ等で連絡する。 ●避難場所の事前確認 →会場と相談のうえ避難場所を確保し、運営責任者に周知する。
②当日試合開始前	
委員長 運営責任者	●気象状況の確認 →危険が予測される場合、試合方法変更や日程変更（中止・延期）の判断を行う。 →会場に集合させるべきではないと判断した場合、ホームページ等で連絡する。 会場に集合させた場合、開会式等で安全管理徹底を呼びかける。
③当日試合開始後	
委員長 運営責任者 各会場運営係	●気象状況の適宜確認 →危険が予測される場合、試合方法変更や日程変更（中止・延期）の判断を行う。 ●落雷・豪雨等発生 →雷鳴が聞こえた場合は躊躇なく試合を中断させ、生徒及び関係者を安全な場所（室内の待機所が確保できることが望ましい）に避難させる。 雷鳴が収まってから30分が経過するまでは試合を再開させない。 →豪雨の場合は試合を中断させ、生徒及び関係者を安全な場所（室内の待機所が確保できることが望ましい）に避難させる。

(2) 熱中症対策

①前日まで	
委員長 運営責任者	●気象状況の確認 →【熱中症警戒アラート】が発令される等の危険が予測される場合、大会実施方法や日程の変更を検討する。必要な場合は前日までにホームページ等で連絡する。 →前日の睡眠や当日の朝食・栄養補給・水分補給・帽子着用等の重要性について、専門部ホームページ等で注意喚起する。 →会場と相談のうえ冷房のある屋内の場所を確保し、運営責任者に周知する。 →熱中症予防喚起の掲示物を準備する。 ●熱中症対策を大会要項に明記
各校顧問	●気象状況の確認、専門部ホームページ等の連絡を確認 →生徒の体調チェックを行い、熱中症予防の注意喚起をする。
②当日開始前	
委員長 運営責任者 各会場運営係	●気象状況の確認 →【熱中症警戒アラート】が発令される等の危険が予測される場合、大会実施方法や日程の変更を検討する。開会式等で安全管理徹底を呼びかける。
各校顧問	→生徒の体調チェックを行い、熱中症予防の注意喚起をする。

③当日開始後	
委員長 運営責任者 各会場運営係	●気象状況の適宜確認 →【熱中症警戒アラート】が発令された場合、状況に応じて大会実施方法や日程の変更を検討。 ●本部で1時間毎に暑さ指数(WBGT)を計測^{※1}(環境省の観測データを参考にする場合もある) →特に、<u>暑さ指数(WBGT)32.2℃に達した場合は、大会実施方法変更(試合数削減、試合方法変更、レスト確保)や日程変更等の具体的な対応^{※2}を行う。</u> →可能な限り生徒が待機できる日陰の待機所を確保し、特に試合間についてはレストを十分に確保させる。各会場運営係は氷や冷却剤等を常備しておく。 →応援生徒や観客に対しても、放送や掲示等で熱中症対策を呼びかける。 ●ロービングアンパイア(教員の見回り)の強化 →安全に試合を進行するため、会場の教員を各コートに割り振る。
各校顧問	→適宜生徒の体調チェックを行い、熱中症予防の注意喚起をする。 →分散会場の場合、必ず生徒と連絡できる体制を整える。

※1 暑さ指数の測定方法

黒球を日射に当てる(日向で)／地上1m程度の高さで／壁等の近くを避ける(風が通る場所で)

※2 具体的な対応策の例(状況に応じて大会本部で決定する)

- ①試合数削減…1日に行われる最大試合数の削減(本来の予定より前のラウンドで止める)
- ②試合方法変更…【選手】ノードバンテージ方式、セミアドバンテージ方式等の実施
【審判】セルフジャッジ制の実施(敗者審判を会場に残さない)
- ③レスト確保…試合間レスト時間の延長(20分以上)

(3) 対応および連絡体制 ※必ず委員長および運営責任者に連絡をしてください。

①災害(荒天・地震等)対応	
委員長 運営責任者	中止・延期・再開・代替案の採用等の決定 →各校顧問へ連絡 →必要な場合、委員長は高体連事務局に報告
②事故(急病者・負傷者等)対応	
委員長 運営責任者	救急搬送の必要性の決定 →医療機関へ連絡 →必要な場合、委員長は高体連事務局に報告(事故報告書・緊急対応報告書)
各校顧問	保護者連絡・各校校長連絡

(4) その他

「雷探知機」10台、「暑さ指数(WBGT)測定器」10台をテニス専門部予算で購入。

- ①雷探知機…東部地区：2／西部地区：2／南部地区：4／北部地区：2 で分配
- ②暑さ指数(WBGT)測定器…東部地区：2／西部地区：3／南部地区：3／北部地区：2 で分配